双葉中学校　学校関係者評価書　　令和６年２月　５日（月）

双葉中学校　学校関係者評価委員会作成
第１回　学校関係者評価委員会
実施日：1月２６日（金）　１７：００
会　場：双葉中学校会議室
参加者：（学校関係者評価委員）柳本博美　宮坂雄次郎　長谷部集　佐藤玉三
　　（学校側）　小林　大　市川英雄　荻野秀紀

Ⅰ　学校側から提案された内容
・　自己評価・生徒アンケート・保護者アンケート結果
・　比較集計結果表（昨年度と今回の生徒・保護者アンケート，教員自己評価の比較）
・　自己評価書

Ⅱ　協議された主な内容
・双葉中学校の現状
・双葉中学校の課題と改善策

＜学校関係者評価書＞

Ⅰ　全体評価
○今年度も昨年度に続き，ＡＢ双方を合わせると肯定的評価の項目が多い。
Ⅱ．学校運営，Ⅲ．学習指導，Ⅳ．生徒指導でも，ＡＢ双方を合わせると９０％を超える高い数値が見られ，教職員の教育活動への取り組みの自己評価の高さがみられた。

・教師自己評価Ⅰ(学校教育目標･学校経営)
５項目中すべての項目で 90%以上のＡＢ評価である。2 番，3 番の項目はＡ，Ｂ評価で１００％であった。5 番の「職員の協力体制」が他の項目に比べて，数値が低くなってきている。
・教師自己評価Ⅱ(学校運営)
７項目中４項目で 90%以上のＡＢ評価である。「学びの意欲を喚起する授業に取り組んでいる。」ではＡＢ評価で１００％であった。その一方でＡＢ評価の数値が昨年に比べて，低下している項目が多い。ＩＣＴを取り入れる目的を全職員で共有して，指導と評価の一体化をめざしていきたい。
・教師自己評価Ⅲ(学習指導)
７項目中５項目で 90%以上のＡＢ評価である。ＩＣＴについては校内研などでも，取り組んだこともあり，数値の上昇が見られた。また，新学習指導要領にある協働的な学びの数値も上昇した。
・教師自己評価Ⅳ(生徒指導)
６項目中，5 項目で 90%以上のＡＢ評価である。また，4 項目で数値の上昇が見られるいじめ，不登校や支援の必要な生徒に対して組織的な取り組みの項目とキャリア教育の数値に課題が見られる。
・教師自己評価Ⅴ(地域との連携)
６項目中４項目で 90%以上のＡＢ評価である。「開かれた学校作り」の項目ではＡＢ評価を合わせて１００％であった。地域人材等の活用についての数値が改善していない。
・教師自己評価Ⅵ(学校の特色)
４項目中の３項目で 90%以上のＡＢ評価である。「時間を守る」の項目はＡＢ評価で１００％である。「読書活動」の項目の数値が減少している。時程の変更で，朝読書の時間が少なくなったことも影響していると思われる。
・教師自己評価Ⅶ（創甲斐教育）
３項目中の２項目すべてで，ＡＢ評価で９０％以上であった。昨年と比べても，すべての項目で数値の低下が見られる。

・生徒アンケートからは，全体としてＡＢ評価を合わせると昨年より，若干ではあるが，数値が向上している項目が多い。また，ＣＤ評価を合わせた数値も若干，減少している。「学校が楽しいですか」の項目でＣＤ評価の数値が，年々少しずつ上昇している。「学校が楽しいですか」の数値がＡＢ評価合わせて，７７％いる。「将来に夢や希望を持っていますか」のＡＢ評価合わせて７２％いる。より充実した教育活動を展開することでこの数値をあげていくことを，課題として取り組みたい。また，個別に項目を見ていくと２２番のあいさつの項目が停滞している。コロナ禍も明けたことで改善を図っていきたい。

・保護者アンケートからは，昨年度と比べて，横ばいの項目が多い。生徒アンケートに比べると，数値が概ね，昨年並なみである。コロナ禍が明けて，学校に保護者訪れる機会は増えたが，まだ学校の教育活動が保護者に見えずらい面があるようにも思われる。「ＰＴＡ活動に参加していますか」という項目では，数値の回復が見られた。

Ⅱ 特　徴

○コロナ禍が明け，この３年間で多くの職員が入れ替わり，若い教職員が増えた中で学校行事が復活して，以前の姿を取り戻していく１年になった。教職員のＡ評価は少なくなったが，A,B 評価を合わせると，全体としては，まずまずである。また，課題としてみられた項目を来年度の教育活動，学校運営につなげていきたい。

Ⅲ 今後の課題として意識していくこと

・ＩＣＴや協働的な学びに課題を感じている教職員が多い。来年度も校内研などで，教職員の研鑽に努めていきたい。（この学校評価の結果を活用していく）
・地域に開かれた学校を目指し，「学校・学年たより」やＨＰの情報発信に努め，保護者からの信頼を得ることにつなげていきたい。また，保護者が学校に足を運んでいただく機会もコロナ前のように増やしていく。
・ＩＣＴ（一人１台タブレット）が導入され，４年目になった。授業でタブレットを使う場面は増加し，リモートの授業は日常的に行われるようになったが，課題を感じている教職員も多い。来年度もなお一層の研修を実施して，全職員で研鑽を積んでいけるようにする。

学校評議員より

・コロナ禍の３年間で若手教職員が増えた。コロナ前の学校を取り戻すには，まだまだ多くのエネルギーが必要であるが，中堅，ベテランの教職員が中心となって，学校を盛り上げてほしい。
・ＩＣＴの効果的な利用に課題がありそうであるが，子どものために，先生方も研鑽に励んでほしい。
・コロナ禍の影響もあるかもしれないが，双中生のあいさつが少し停滞しているのを感じる。学校だけの問題ではないが，来年度以降の課題にしてほしい。
・授業参観，学校開放日などを設定して，保護者が学校に来る機会を増やすことは，大賛成であるホームページは定期的に目にしている。ＨＰや学年，学級通信などの細やかな情報発信も大切だが，学校の様子を直に見てきていただくことに意義がある。
・ＰＴＡ活動について，存続が難しくなってきているが，保護者の理解を得る工夫をしながら，来年度以降も活動の継続を期待したい。

※特記事項

特になし

記載責任者（双葉中学校　学校関係者評価委員）　氏名：柳本　博美　印